2024 年 4 月 24 日（水）

「水曜サロン with 赤堀会長」第 5 期 第 13 回（通算 73 回）

デジタル学習基盤の今後と教科書と AI ドリルの連携について

１．内容

〇Qubena（キュビナ）の特長のご紹介

〇学習者用デジタル教科書の広がり

〇データ利活用に関する課題

・サービスごとに分散しているデータ

・学習者主体の横断的なデータ利活用へ→学習 e ポータル

〇教科書・ドリル・テストがつながることによるシームレスなデジタル学習基盤が重要

・AI ドリルと MEXCBT の連携は学習 e ポータルで連携

・AI ドリルと教科書の「コンテンツ」の連動は主要教科書への準拠で実現

〇デジタル教科書と Qubena の「アプリケーション」間の連携・実証について

・小さい机の上で紙の教科書、資料等と端末を開く限界の解決

・教科書から AI ドリルへ、AI ドリルの解答結果から教科書へのシームレスな展開

・閲覧時間等の学習行動と習得状況との関係からのレコメンド等への発展

２．所感

最初の自己紹介では、なかなか「キュビナ」を学校で覚えてもらえなかったため、髪をキュビナのテーマカラーである緑色に染めたところ、子供たちにも「キュビナさん」と呼んでもらえるようになったとのお話がありました。公教育に関わる業界ですので、服装等も保守的になりがちだと思いますが、子供たちのためにもっと自由な学習を推進していこうという木川さんの思いの表れのようにも感じました。

質疑応答の中で、木川さんが考える未来の学びの姿についての質問がありました。創業当時から、子供たちが未来をつくる力を育みたい、そのためには探究がとても重要であり、探究をやっていく中でのリファレンスとして教科学習に戻っていくような学習体験ができるようになればと考えてきた、とのことでした。また、その学習体験の実現にあたって、学習指導要領が学年ごとの区切りになっていることはハードルになるが、それを乗り越えていきたいとの思いを語ってくださいました。髪の色の話ではありませんが、デジタル化が進んでいく中で、学びの自由度が高まっていくような方向性が見えるご回答でした。

また、教科書とドリルがアプリケーションとして連携することで、子供たち自身が自ら学び取っていくことができるようになるのが理想とのお話もありました。子供たちがドリルで学習するときに教科書のどこをみたらよいのかわからないということは解消されやすくなり、先生は理解の追いついていない子供たちのサポートや声かけに時間を使うことができるようになるだろうと思います。

全体を通して、学びの形を変えたい、という思いが伝わるお話でした。木川さんの役職名「CLO」は「Chief Learning Officer＝教育体験責任者」とのことですが、まさにそれを体現する仕事をされていると得心しました。木川さん、貴重なお話をいただき、ありがとうございました。